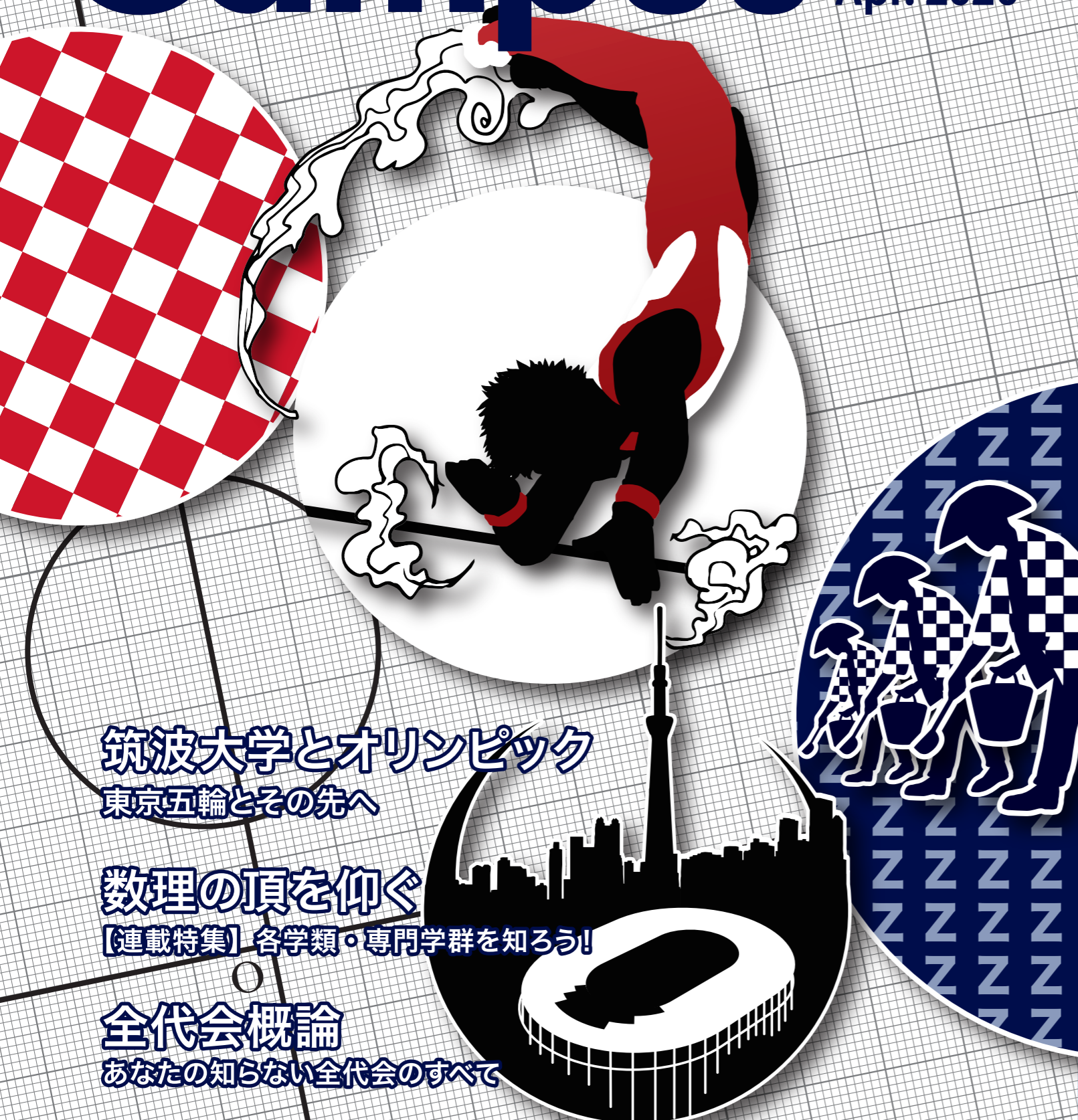


# Campus

221

全大会の広報誌

Apr. 2020

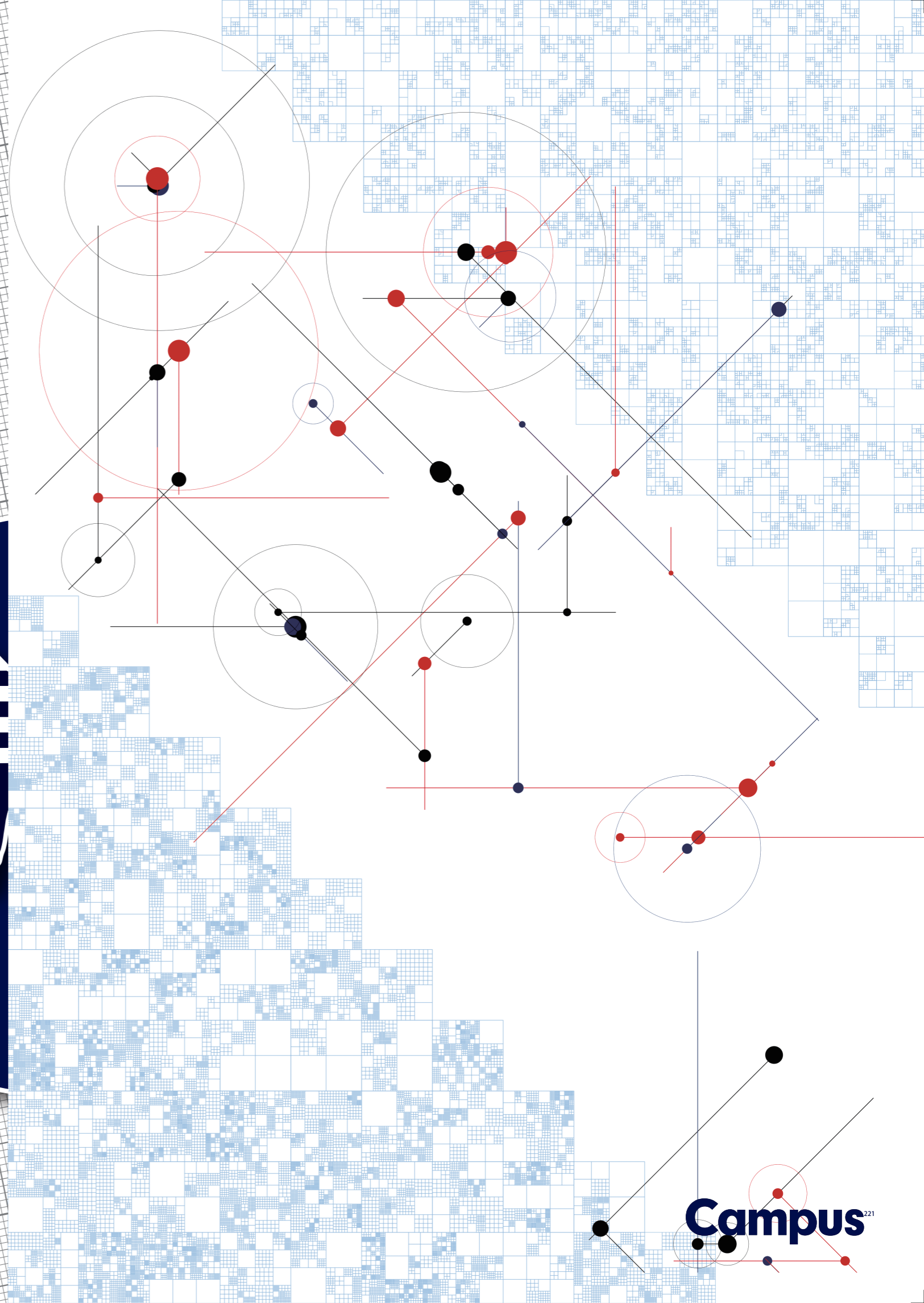


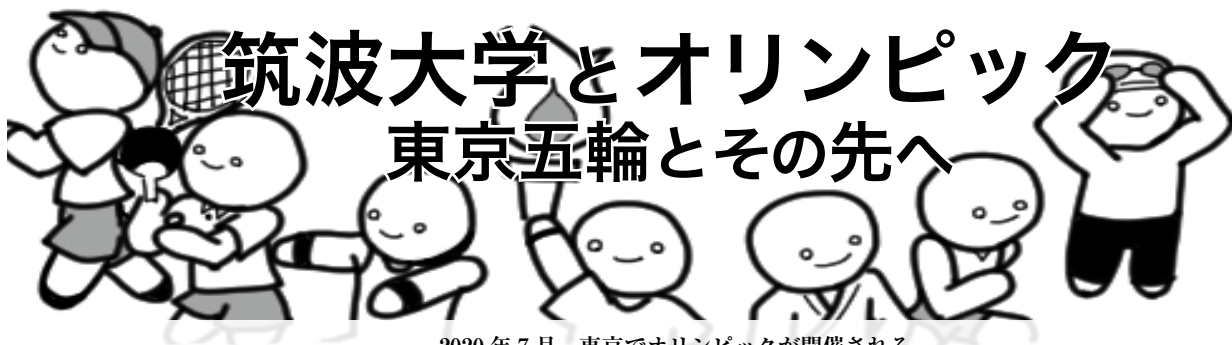
筑波大学とオリンピック  
東京五輪とその先へ

数理の頂を仰ぐ  
【連載特集】各学類・専門学群を知ろう!

全代会概論  
あなたの知らない全代会のすべて

全代会活動報告





# 筑波大学とオリンピック 東京五輪とその先へ

2020年7月、東京でオリンピックが開催される。

本誌では、オリンピック競技の魅力だけでなく、歴史や理念について見ていく。

(編集人：稲富拓人、中山皓太)

## 人を育むオリンピック

### 誕生と歴史

オリンピックの起源は古代ギリシャにまで遡る。当時オリンピックの開催期間中はいかなる戦いも禁止された。「フランスの教育者ピエール・ド・クーベルタンは古代オリンピックの教育的価値、そして平和を育む祭典であるという側面を鑑みて近代オリンピックを創始した」と真田久教授（体育学）は語る。

そのクーベルタンから国際オリンピック委員会（IOC）委員に推薦されたのが嘉納治五郎であった。当時彼は筑波大学の前身である東京高等師範学校で校長を務めていた。また、教育面におけるスポーツの重要性を認識していたと同時に、スポーツは人々を繋ぐ平和的なものであるとも考えていた。「嘉納治五郎にとって、オリンピックの理念はそれまで自らが柔道や水泳などのスポーツを通して広めようとしたものほとんど同じであると感じたのではないかと真田教授は話す。

嘉納氏の働きかけにより、日本は1912年のストックホルム五輪で初めてオリンピックに参加することになった。日本人初の選手として、東京大学の前身である東京帝国大学の三島弥彦、そして東京高等師範学校の金栗四三の二人が出場した。

### 筑波大学との関わり

筑波大学とオリンピックとの関わりは、ストックホルム五輪から100年以上続いている。20世紀前半は東京高等師範学校から、長距離競技や十種競技などの陸上競技で数多くの選手が輩出された。「当時の日本はスポーツにおける技術や知識が未熟であった。そのためオリンピックへの参加は、技術や知識が進んだ欧米の選手からそれらを学ぼうとする意味合いが強かった」と真田教授は話す。

戦後、東京高等師範学校の流れを汲んだ東京教育大学からは8枚の金メダルを獲得した加藤沢男など、体操選手が多く輩出された。そして筑波大学となった後も、柔道や水泳などの種目に数多くのオリンピック選手を送り出している。

また、筑波大学は競技の研究にも力を入れていると真田教授はいう。1964年の東京五輪開催にあたり、当時の東京教育大学にスポーツ研究所が設立された。この施設では選手の体力や、パフォーマンスについて研究を行っていた。筑波大学ではその流れを継承し、現在でも選手のパフォーマンス向上のため、より良いトレーニング法の研究を行っている。他にも競技水着の改良など、企業と連携した研究も行われているという。

### オリンピックから学ぶ

「筑波大学は競技面だけではなく、オリンピック・パラリンピックを教育面でも推進していく活動を行っている」と真田教授は語る。その一例として、筑波大学の附属校でオリンピックの理念そのものを定着させる教育が行われていることが挙げられる。「私たちはオリンピックについて、その理念だけではなく、ドーピング問題などの数多くの課題を乗り越えて発展してきたという歴史も学ぶべきである」と真田教授は話す。それにより、現代社会に存在している問題をどう解決するかや、スポーツを行う意味などを学ぶことができるという。



オリンピックの理念について語る真田教授

## 『技術』光る競技

ハンドボールの魅力の一つに激しい点の取り合いが挙げられる。「ハンドボールは他の競技に比べて点数の動きが激しい。加えて、両チーム合わせて14人の選手が密集してプレイするため、迫力ある試合が見られる」と山田永子助教(体育系)は語る。

ハンドボールでは一試合で100本にもものばるシュートが打たれるという。1本のシュートを打つまでには、直径約20cmと片手に納まる大きさのボールを扱う繊細なボールハンドリングの『技術』、そして40m×20mのコートで多様な戦術が繰り広げられゴールまでボールを運ぶ『技術・戦術』が要求される。また、そのような数多のシュートからゴールを守るゴールキーパーが繰り出すセーブも、試合に勝つために重要な『技術・戦術』だ。そのようなハンドボール特有の様々な『技術・戦術』の応酬が、この競技を白熱させる大きな魅力の一つである。

山田助教と関わりが深い女子ハンドボール日本代表チームは、開催国枠として東京五輪2020への出場が決定している。しかし、オリンピック出場に対する喜びがある一方、競技を継続していくことに苦勞している選手も数多くいるという。「オリンピック出場者の中には社会人として生活し、十分なトレーニング時間を確保するのに苦勞している人もいます。彼女たちが生活と競技を両立できるようなサポートが不可欠だ」と山田助教は話す。



ハンドボールの魅力を語る山田助教

昨年、熊本で開かれた世界選手権では女子日本代表は予選リーグで勝ち残り、過去最高順位である10位という成績を残した。しかし、この世界選手権の事前合宿とその後行われた日本選手権で主力選手4人が負傷した。この相次いだ選手の負傷を、他国にとって実力が未知である若手選手を起用できる好機としてポジティブに捉えるべきと山田助教はいう。

昨年の女子世界選手権ではオランダが優勝を果たした。山田助教によると「オランダの優勝の要因の一つとして、オランダチームで行われたベテラン選手から若手選手への切り替えの成功が挙げられる」という。能力面で優れた選手が多いという日本の若手選手がうまくチームに馴染めれば、女子日本代表の戦力増強に繋がると山田助教はいう。

現在、ハンドボール競技の発展に向け、国際ハンドボール連盟では選手の安全管理に力を入れているという。将来のハンドボール界を担っていく選手を守ることは、競技の発展に繋がる。更に、荒々しいと思われがちなハンドボールが本当は安全な競技であると一般の人々に示していきたいという。「ハンドボールは魅力的なスポーツ。世界の人々に楽しんでいただきたい」と山田助教は話す。

## スポーツの価値

「日本にとって東京五輪2020は、スポーツの価値を改めて見直す良いチャンスになるだろう」と谷川聡准教授(体育系)は語る。

谷川准教授は、今回の東京五輪2020で日本人のメダル獲得者が増えるだろうと予想する。自国開催のため出場者も多くなり、モチベーションを上げることができ、スポンサーが候補選手にかける費用も例年よりも増加しているからだ。しかし、オリンピックが終わると、日本におけるスポーツの社会的な役割が何であったのかという疑問が突きつけられるだろうと分析する。

欧米では大学とスポーツが人々のアイデンティティになっている。日本でもそれになり、サッカーやバスケットボールなど球技のプロチームは、拠点となる地域名をチーム名に入れ地域のシンボルとなっていることが多い。

2000年ごろから陸上競技などでは、一度でもオリンピックに出場すると他の大会に出る際に広告費がつき、選手によっては生計が立てられるほどの収入が得られるようになった。厳しい環境下で大会に出ることはその後の選手生命に支障が出る可能性がある。そのため海外のいくつかの国における収入に余裕のある選手は、開催地域の気候状況や自分の出場回数などを考慮してオリンピックへの出場を見送る例がある。

今回の東京五輪2020の後、個人と契約

している企業のスポンサーは減るだろうと谷川准教授は予想している。この懸念はスポーツの価値がオリンピックに偏っているため起こってしまうという。オリンピック選手のスポンサーというのは企業にとって一種の有利なステータスとなるため、開催の前後一年間はトップレベルの次点の選手にも企業スポンサーがついている。自国でのオリンピック開催の熱が冷めた後も選手への支援を継続することが重要であるという。

一般的な体育系学部が大会実績に重きを置くなか、筑波大学はスポーツの新たな価値を社会に浸透させようと活動している。筑波大学は国立の総合大学で唯一、他の私立大学と同様にスポーツ推薦での受験者を募る他、他大学よりもスポーツ系の研究者が多い点が特徴である。筑波大学ではアスリートだけでなく一般人にまで及ぶ運動状況の研究を行っている。「スポーツの価値を再定義し、社会に浸透していかなければならない」と谷川准教授は語る。



スポーツの価値について語る谷川准教授

## 自然科学の真骨頂を扱う

「数学とは、人間が生み出した素晴らしい文化の一つである」と解析学分野の竹内潔前数学類長（数理解論系）は語る。

数学は、正しい議論を積み重ねる限り、いかなる空想をも表現することが出来る。体系立てられ、形となった数学は、他分野へと応用されることもある。しかし、数学の方が時代を先取りし過ぎていたために、現在の技術には応用されないことが多い。そのせいもあるが、今の社会には、数学を軽視する風潮があるのではないかと竹内教授はいう。

歌舞伎や文学といった、ある種の芸術に数学は似ている。工学などに応用される面を持つだけでなく、高い文化性を有した、非常に特殊な分野である。日本の数学は、その文化的な面において世界から評価されている。しかし、芸術と同様に、数学もまた保護なしではいずれ衰退してしまうと竹内教授は話す。

「数学の面白さは、議論を深く、深く積み重ね、新しい観点へとたどり着いたときに感じる。それは、例えるなら高い頂から見たことのない景色を望むようなもので、なにより喜びを感じる」と竹内教授はいう。

議論を深く積み重ねるといふことは、百パーセント正しい議論を何十回、何百回と繰り返すということだ。そのために、数学類の一年生には、数学の基礎からしっかりと学ばせる。使用する教科書は分かりやすいものを選定することを心がけ、さらに『数学手習い塾』という補習の場を設けることで、盤石な指導体制を敷いている。土台の知識を堅実なものとするので、議論をより高次元なものへと発展させることが可能となる。

「高校生までに学ぶ数学と大学で学ぶ数学は違う。学生には、永遠の正しさを持った数学を議論できる術を身につけてほしい」と竹内教授はいう。



自著「数学リテラシー」を持ちながら語る竹内教授

数学類は解析学、代数学、幾何学、情報数学という4分野から成っている。様々な顔を見せる数学は数千年に渡って人類の発展に寄与し、人々を魅了し続けてきた。竹内学類長をはじめとする各分野の先生方に数学への思いを訊ねた。

(編集人：櫻井怜、茂業哲也、鈴木泰我)

## 実は、面倒見が良い学類

「一見、違って見えるものが、実は根っこは同じだったと発見したときに数学はおもしろいと感じる」と代数学分野の増岡彰教授（数理解論系）はいう。

増岡教授が学生のときに不得手だった解析学を研究者となつてから改めて学び直す機会があった。そのときにふと、英語から日本語に翻訳するように、自身が扱っている幾何学の分野へと概念を置き換えてみた。すると驚くほど辻褄が合い、それで論文を一本書きあげた。

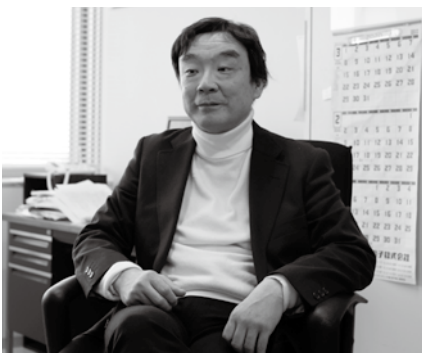
人間の考えることはそう大差ない。実は分野や見方が違うだけである。異なる見方を通して、同一のものが実在することを感じられるとき、数学は楽しいと感じる。「だから数学はやめられない」と増岡教授はいう。

「様々な見方を得ることで、数学という実在を感じて根源を分かた気になる。だが、いくら突き詰めても判然としない懐の深さが数学にはある。だからこそ、数学は博識でなくとも出来る。粘り強ささえあれば、好きであればそれで十分だ」と増岡教授は語る。

筑波大学の数学類は様々な強みを

持つ。例えば、東大や京大といった日本屈指の大学に劣ることのない人材が、実は筑波大学には揃っている。また、学生の面倒見の良さに関しては日本随一だと自負しているという。数学類の教員が約30名であるのに対し、学生の数は40名。演習の授業時にはその半分の20人ずつに分かれるためマンツーマンでの指導が可能だ。さらに大学院生がティーチングアシスタントとしてつくなど、学生一人一人に手厚い指導を施している。

「このあと、取材を後見した学生に百円コインをおごるんだ」と増岡教授は笑いながらいう。公と私、どちらの面から見ても面倒見が良い学類であった。



数学類の手厚いサポートについて語る増岡教授

## 幾何学に掛ける

幾何学分野の丹下基生准教授（数  
理物質系）曰く、幾何学の魅力は「絵  
を描いて研究できることだ」という。  
「高度な理論をやっているのだが、一  
見小学生の落書きにしか見えない研  
究も沢山ある」。

幾何学は我々にもなじみ深い平面  
や立体を扱うユークリッド幾何学に  
端を発し、多様体や位相空間といっ  
た抽象的な概念を扱うように発展し  
てきた。一見難しいようにも思える  
が、「図形の性質を扱うという点で  
は高校までの数学とそこまで変わら  
ない」と丹下准教授は話す。

かつて京都大学で学んでいた丹下  
准教授は、当時教鞭を取っていた深  
谷賢治という幾何学の権威に惹かれ  
て幾何学分野に進むことを決めた。  
入学当初は数学を学ぶことだけを考  
えていて、大学院に進学するかどうか  
も決めていなかった。しかし、い  
ざ進学するときには他の道を考える  
こともなかったという。周囲の人か  
ら反対を受けても、ここで数学をや  
めたくないと押し通した。「研究以  
外の道を考えるにせよ、どれだけ自  
分の熱意があるかどうかだと思っ  
やる気だけでほとんど人生が決まる  
ような気がする」と、当時を振り返

る丹下准教授は研究に対する熱意を  
にじませた。

丹下准教授は数学が苦手な学生か  
ら講義の質問を受け付ける『数学手  
習い塾』の発案者の一人でもある。  
もともとは丹下准教授自身が京都大  
学在学中に仲間と開いていた自主ゼ  
ミをモデルとしており、学生と気軽  
に数学の話をするのが目的であつ  
た。しかし実際には、数学に純粋な  
興味をもつ学生が少なかったために  
現在の形に落ち着いたのだという。  
「多くの学生は単位を目当てにやっ  
て来るが、たまに面白い学生も来る」  
と丹下准教授は話す。



幾何学の魅力を語る丹下准教授

# 数理の頂を仰ぐ

【連載特集】各学類・専門学群を知ろう！

## 人工知能と数学

情報数学分野の照井章准教授（数  
理物質系）の専門は計算機代数・数  
式処理だ。この分野の研究は、気象  
予報の根幹をなす大気循環ルールの  
シミュレーションにも応用されてい  
る。私たちの日常生活にもつながる  
重要な分野だ。

研究室の本棚には数学の専門書に  
加えて高校数学の参考書も並んでい  
る。照井准教授が現在携わっている  
人工知能プロジェクト「ロボットは  
東大に入れるか」（東ロボプロジェ  
クト）において数学の入試問題を解  
くプログラムの開発に活用するため  
だ。プロジェクトにおける課題の一  
つであった数列問題を解く解答機  
は、照井准教授の研究室の学生が開  
発し修士論文として発表したものが  
採用されているという。

近年「人工知能」というとその単  
語だけが一人歩きすることも多い。  
しかし、人工知能は独立した技術で  
はなく、その根底には微分積分、線  
形代数、数理統計学といった数学が  
ある。照井准教授は人工知能本体だ  
けでなく、それら数学の基礎研究に  
も取り組んでいる。

東ロボプロジェクトにおける数学  
解答機の基礎になった限量記号消去

法という理論は、今後様々な応用が  
見込まれているという。照井准教授  
は現在この理論をロボットの制御技  
術に応用するための研究に取り組ん  
でいる。

照井准教授は東ロボプロジェクト  
リーダーの新井紀子氏が行っている  
全国的なリーディングスキルの調査  
にも参加している。調査の結果、新  
井氏は子どもたちの論理的推論力が  
不足していることを指摘した。「大  
学生もその例外ではない。これから  
は論理的推論に加えて、その内容を  
相手に伝えるスキルも重要になる」  
と照井准教授は話す。



人工知能と数学の関係について語る照井准教授

# 全代会概論

## あなたの知らない全代会のすべて



筑波大学には、学則で様々な学生組織が定められている。その中の一つが全学学類・専門学群代表者会議（全代会）だ。全代会は、学内全般の問題を取り扱い、全代会の意見は学生の総意として扱われる。ここでは、そんな全代会の概説をする。（編集人：北川汰知）

### 「全代会」とは

大学ループ道路の大学公園バス停近くの道路に入ると右手に白と黒の外装の建物が見える。この「共同利用棟D」と名付けられた建物の中で、全代会の構成員は活動している。

「全代会」こと、全学学類・専門学群代表者会議は、学生一人一人の意見及び要望を大学側に伝えるための学生組織だ。全代会の活動は主に二つある。一つは学生からの意見や要望を議題として審議をする「会議」、もう一つは学内の諸問題に大学側と連携して専門的に取り組む「委員会活動」である。

全代会の構成員は「座長団」と「専門委員」の2種類に分かれる。「座長団」は各学類・専門学群のクラス代表者の中からさらに選出され、前述の「会議」に出席するメンバーとなる。「座長団」は「委員会活動」にも従事する。「専門委員」は「委員会活動」のみを行い、学内の諸問題の解決に尽力する。

「全代会の仕事は多岐にわたるため人手不足であることは否めない。筑波大生であるなら誰でもなれる専門委員を全代会は常時募集しているため、興味がある方は連絡してほしい」と北川汰知さん（情報メディア創成学類2年）は述べる。

### 昨年の活動を振り返って

「学生の代表組織である『全代会』とはどのような組織であるかを、全学生会に理解してほしい」と、令和元年度の全代会議長を務めた瀬邊風馬さん（日本語・日本文化学類3年）は語る。瀬邊さんは全代会の議長として、会議時間の短縮など全代会の改革に積極的に取り組んできた。「全代会」は数ある学生組織の中で大学側へ直接意見できる唯一の組織だ」と、瀬邊さんは全代会の重要性を述べる。







瀬邊さんはこの一年間、全代会の出席率を維持するために本会議を効率化し、会議時間を短縮することに努めた。その成果もあり、決議を取るための定足人数を下回ってしまっていた議決がとれなくなる流会の回数を昨年より減少させることに成功した。また、全代会にある各委員会に活動を促すことにより、学生の意見を積極的に取り入れるよう尽力した。その成果として学生生活を改善するための委員会である教育環境委員会と生活環境委員会、調査委員会が活発化し、学生の意見が多く取り入れられた。結果、例年よりも教育環境委員会や生活環境委員会が扱う議題が増えたという。「しかしながら、取り上げられた議題自体は委員が意見

したものであり、議題を学生全体から吸い上げる仕組みの広報が不十分であったと考えている」と分析する。令和2年度では次年度に始まる総合選抜についての議題が多くなる。瀬邊さんは予測する。事実、昨年度最後の本会議の議題は総合選抜に関するものだった。全代会に入る人はもちろん、入らない人にも全代会がどのような組織でどのような仕事をしているのかについての理解を求めているという。「筑波大学の学生組織は元々の体系が他大学と違うため、総合選抜の導入に他大学を参考にするのは難しいと思う。筑波大学の転換期であるから、次の全代会構成員の方々には頑張っていたください」と瀬邊さんは次年度の全代会構成員への期待を述べる。



次年度の全代会構成員への期待を述べる瀬邊さん

## 全代会の委員会

 <p><b>総務委員会</b> 事務部門 / 情報部門</p>	<p>全代会の庶務を担当し、会議の準備や物品の補助を行う。情報部門では、全代会室のPC環境やウェブサイトの管理を行う。</p>
 <p><b>学内行事委員会</b></p>	<p>全代会の下部機関である学園祭実行委員会やスポーツ・デー学生委員会の監査・監督を行う。また、各サークル連合会など学内行事を運営する組織と全代会をつなぐ役割も持つ。</p>
 <p><b>教育環境委員会</b></p>	<p>全学的な教育に関する問題を扱う。学習環境や授業内容の問題について検討し、大学と連携して改善する。</p>
 <p><b>生活環境委員会</b></p>	<p>学生生活に関する問題を扱う。学生宿舎や学内の売店、交通などに関する問題を検討し、大学や業者と連携して改善策を模索する。</p>
 <p><b>調査委員会</b></p>	<p>学内の問題を幅広く扱い、調査を行う。座長団などからの依頼をもとに調査し、問題の解決を大学に求める。</p>
 <p><b>広報委員会</b> 編集部 / 制作部</p>	<p>全代会の広報を行う。全代会の活動や学生に有益な情報を発信するために、広報誌『Campus』やポスターの制作、Twitter アカウントの運営を行う。</p>



大会館前でペDESTリアンデッキにおける溝の調査を行う調査委員会



～教育生活環境調査～  
調査委員会では、学生の皆さんの身の回りの問題点について調査しています。

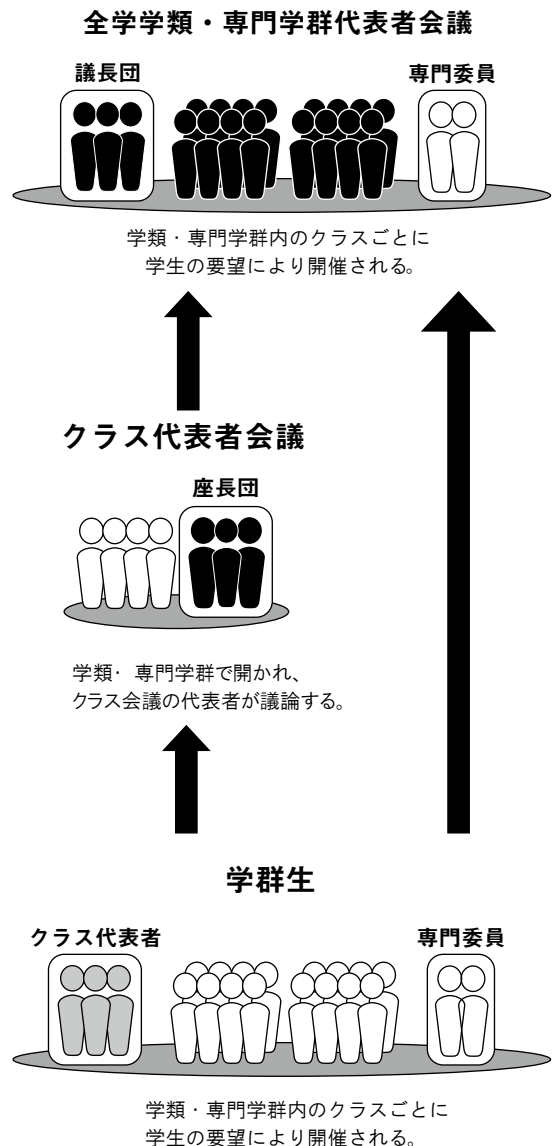
お問い合わせは  
調査委員会 (zdkres@gmail.com) まで

URL : <https://forms.gle/hKdGdQcAyWetzex17>



詳しい情報は  
全代会ホームページから

URL : <https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/home/>



# 全代会 活動報告

11月 20日 クラ代議長懇  
12月 4日 副学懇  
11日 第五回本会議

## ■ クラ代議長懇

日時…11月20日(水) 18時30分  
場所…1C406  
出席…議長団、各委員長、  
クラス代表者会議議長

### 実施内容

クラス代表者会議議長懇談会(クラ代議長懇)は、各学類・専門学群のクラス代表者会議の議長同士の交流や情報交換を目的として開催された。まず、全代会の議長であり、かつ日本語・日本文化学類クラス代表者会議の議長でもある瀬邊風馬(日本語・日本文化学類3年)が懇談会の趣旨を説明し、教育環境委員長の関口東亜(比較文化学類3年)からは各学類の悩み事や問題が共有された。情報交換の話題としてはクラス代表者会議の組織及び開催頻度が提起された。

懇談会には各学類のクラス代表者会議議長25名のうち12名と全代会の構成員数名が参加した。クラス代表者会議の開催頻度や構成員の活動状況、クラス連絡会の状況など、各学類におけるクラス代表者会議の現状と課題について活発な議論が行われ、参加者からはおおむね好評を得た。



クラ代議長懇の様子

## ■ 副学懇

日時…12月4日(水) 18時30分  
場所…第1エリア食堂  
出席…副学長、教職員、  
全代会構成員 他

### 実施内容

副学長等と全代会構成員との懇談会(副学懇)では、全代会の活動を報告し、提出された話題について話し合う。毎年未開催の全学レベルでの学生の要望を共有する重要な会として位置づけられている。

今回の議題は、「令和2年度春モジュールにおける土曜授業開催について」だ。令和2年夏に開催される東京オリンピックにボランティアや大学関係職員が滞りなく参加できるようにするため、筑波大学では授業終了時期が例年より前倒しされる。その結果、土曜授業が実施されることとなった。

副学懇では土曜授業実施によって土曜日に活動を行う学生団体に公欠を認めるかについて議論が行われた。また、生活費を得るためにアルバイトを行っている学生への対処などについても様々な意見が交わされた。



副学懇の様子

## ■ 第五回本会議

日時…12月11日(水) 18時30分  
場所…5C506  
出席…35人

### 議題①

『第三エリア食堂前にみられるペDESTリアンデッキの溝の改善要望』

### 議題②

『B1V1つくば2階のサテライトオフィスへの証明書自動発行機設置の要望』

### 議題③

『第一・三エリア間を流れる水路にかかる橋への照明器具設置の要望』

### ○議題について

この会議では出席数が定足に満たなかったため、第五回本会議は流会になった。そのため、意見聴取会として議題を進めた。

この意見聴取会の議題①、③は学生から出た大学内の生活環境の改善に関する要望であった。これらの議題では質問や意見が活発に交わされた。議題②は学割に関する証明書の自動発行機の設置の要望だった。この議題では質問に加え反対意見も交わされた。



第五回本会議の様子

## ■ 第一回新歓ネット

日時…12月16日(月) 18時30分  
場所…5C506  
出席…51人

### 実施内容

新入生歓迎ネットワーク(新歓ネット)は、全代会の新入生歓迎特別委員会(新特)が主催し、各学類の新入生歓迎団体と全学規模での新入生歓迎(新歓)に関する情報を共有することなどを目的とする。今年度は、新歓団体と全代会との連絡手段にLINEを導入することとしたため、新歓ネットの開催はこの1回のみを予定している。

第一回新歓ネットでは、新歓団体同士の顔合わせを兼ねて互いに自己紹介を行った。新特の構成員から新歓に関わる情報の共有を行った。具体的には、新特をはじめ学園実行委員会や学生会実行委員会など新歓に関わる学生組織の紹介や、新歓の日程、および連絡手段となるLINEの登録や、筑波大学紫峰会基金が行っている新歓援助金の概要と申請方法についての説明があった。



第一回新歓ネットの様子



16日  
第一回新歓ネット

1月

8日

第四回意見聴取会

15日

第六回本会議

22日

第五回意見聴取会

29日

第七回本会議

30日

第二回

学生組織連絡会

■ 第四回意見聴取会

日時…1月8日(水) 18時30分  
場所…5C506  
出席…51人

議題①  
『令和元年度筑波大学学園祭  
総括報告書承認の報告』

議題②  
『学園祭学生分担金の額及び  
納入方法について』

○議題について

議題①では、筑波大学学園祭総括報告書の確認と承認を行った。学園祭総括報告書は令和元年度の雙峰祭に關しての概要、学園祭実行委員会の活動を書いたものである。学園祭公式グッズの製作・販売についてや、決算報告書の内容についてなどの質問があった。

議題②について、学園祭学生分担金は学園祭を執行するにあたり全学生から徴収するものである。学園祭実行委員会は全代会の下部組織であるため全代会の取り決めて学生分担金の額が決まる。納入額と納入方法がこれまで通りで問題ないか議論がなされた。



第四回意見聴取会の様子

■ 第六回本会議

日時…1月15日(水) 18時30分  
場所…5C506  
出席…43人

議題①  
『令和元年度筑波大学学園祭  
総括報告書承認の報告』

承認…42  
否認…0  
保留…0

↓全会一致で可決

議題②  
『学園祭学生分担金の額及び  
納入方法について』

承認…42  
否認…0  
保留…0

↓全会一致で可決

議題③  
『第三エリア食堂前にみられるベデ  
ストリアンデッキの溝の改善要望』

承認…43  
否認…0  
保留…0

↓全会一致で可決

議題④  
『B i v i つくば2階のサテライト  
オフィスへの証明書自動発行機設置  
の要望』

承認…41  
否認…1  
保留…1

↓賛成多数で可決

議題⑤  
『第二三エリア間を流れる水路にか  
かる橋への照明器具設置の要望』

承認…43  
否認…0  
保留…0

↓全会一致で可決

○議題について

議題①では、令和元年度筑波大学学園祭総括報告書について審議が行われ、全会一致で可決された。

議題②では、学園祭学生分担金の額と納入方法について審議が行われ、本議案も全会一致で可決された。

以上の2つの議案の議決をもって、令和元年度学園祭に關する議決は全て完了した。

議題③については、第三エリア食堂前のベデストリアンデッキに存在する溝への対応策について審議が行われた。当該地点の溝は自転車の走行等に大きな危険を及ぼすとされ、本議案は審議の結果可決された。

議題④では、つくばエクスプレスつくば駅前にあるB i v i つくば2階のサテライトオフィスの証明書自動発行機設置に対する意義などについて意見が交わされた。審議の結果、本議案は賛成多数で可決された。

議題⑤では、第二エリアと第三エリアの間にある水路付近に照明装置を設置することについて審議が行われた。審議の結果、可決された。



第六回本会議の様子

■ 第五回意見聴取会

日時…1月22日(水) 18時30分  
場所…5C216  
出席…27人

議題  
『学長決定・副学長決定改正、  
全代会内規の制定について』

○議題について

来年度から始まる総合選抜に備え、全代会の今後の運営方式に關する学則の改定に關する議論が行われた。具体的には、全代会の人手不足を解決するための方策と、学長との定期的な懇談会を学長決定に掲載するかを議題とし、活発に議論された。

審議では、始めに全代会の本会議への欠席者が多いことや、ある学類のクラス代表者會議から座長団の人数の調整に關する要請がなされたことを確認した。また、次年度に総合選抜が導入された後に各学類の1年次での人数が減少することを踏まえ、今後の座長団の人数をどのようにするのが適切なものかについての議論がなされた。そして、委任状・代理出席を導入することについての是非が議論された。



第五回意見聴取会の様子

### 第七回本会議

日時…1月29日(水) 18時30分  
場所…3A204  
出席…46人

議題①  
『学長決定「筑波大学の学生組織等について」改正の提案』

承認…46  
否認…0  
保留…0

↓全会一致で可決

議題②  
『副学長(学生生活)決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会について」改正の提案』

承認…46  
否認…0  
保留…0

↓全会一致で可決

議題③  
『全学学類・専門学群代表者会議決定「全学学類・専門学群代表者会議について」制定の報告』

承認…46  
否認…0  
保留…0

↓全会一致で可決

○議題について  
第五回意見聴取会で取り扱った議題について、議長団がそれらを参考に新たに提案した内容について審議した。結果は右に示した通り、すべての議題が全会一致で承認された。



第七回本会議の様子

### 第二回 学生組織連絡会

日時…1月30日(木) 18時30分  
場所…3A213  
出席…議長、学内行事委員会、  
新入生歓迎特別委員会、  
学園祭実行委員会、  
スポーツ・デー学生委員会、  
宿舎祭実行委員会、  
文化系サークル連合会、  
体育会執行委員会、  
芸術系サークル連合会、  
新入生歓迎祭推進委員会

○議題について  
第二回学生組織連絡会では、議長や学内行事委員をはじめとした全代会の面々と、学園祭実行委員会、スポーツ・デー学生委員会、文化系・体育系・芸術系の各サークル連合会、新入生歓迎祭推進委員会の代表者が集まった。多くの学生組織では1月に代替わりが設定されているため、今回は顔合わせを兼ねた会となった。

話題となったのは、今年度春学期に実施される土曜授業への各学生組織の対応や、昨年度撤去された喫煙所に関する現状、新入生歓迎行事に向けた連絡方法についてであった。それぞれの話題について、出席者の間で忌憚のない意見が交わされた。



第二回学生組織連絡会の様子

## 令和元年度の本会議で審議・採決された議案

第二回	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度学園祭開催に関する要請</li> <li>冷房期間延長の要望</li> </ul>	承認51、否認0、保留0で可決 承認49、否認1、保留1で可決
第三回	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生歓迎特別委員会設立の報告</li> </ul>	承認48、否認0、保留0で可決
第四回	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度学園祭開催の要請</li> </ul>	承認51、否認0、保留0で可決
第五回	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三エリア食堂前のペDESTリアンデッキの溝の改善要望</li> <li>BiViつくばサテライトオフィスの証明書自動発行機設置の要望</li> <li>第二・三エリア間の水路にかかる橋への照明器具設置の要望</li> </ul>	定足38人に満たず流会
第六回	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度筑波大学学園祭総括報告書承認の報告</li> <li>学園祭学生分担金の額及び納入方法について</li> <li>第三エリア食堂前のペDESTリアンデッキの溝の改善要望</li> <li>BiViつくばサテライトオフィスの証明書自動発行機設置の要望</li> <li>第二・三エリア間の水路にかかる橋への照明器具設置の要望</li> </ul>	承認42、否認0、保留0で可決 承認42、否認0、保留0で可決 承認43、否認0、保留0で可決 承認41、否認1、保留1で可決 承認43、否認0、保留0で可決
第七回	<ul style="list-style-type: none"> <li>『学長決定「筑波大学の学生組織等について」改正の提案』</li> <li>『副学長(学生生活)決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会について」改正の提案』</li> <li>『全学学類・専門学群代表者会議決定「全学学類・専門学群代表者会議について」制定の報告』</li> </ul>	承認46、保留0、否認0で可決 承認46、保留0、否認0で可決 承認46、保留0、否認0で可決

# Campus

全代会の広報誌  
Apr. 2020

No. 221  
2020年4月1日発行

## 記事制作者より

今回は私は編集部の人として全代会概論を担当した。制作部に人が飽和し始め、編集部から人が減ってきていたためだ。初めて記事を書くということで身内の記事を担当させてもらった。これから様々な人に取材に行きいろいろな記事を書いていきたいと思う。

【北川汰知】

広報委員会に入って初めての記事だ。某ウェブメディア24のような記事を書くノリで委員会に入ると、想像を遥かに上回る記事の質の厳しさに驚いた。広報誌を見てから入るのが普通だと言われるのは百も承知だ。しかし、あまり記事が読ま

れていないのも現実である。今後 Campus が様々な人に読まれるよう  
【茂業哲也】

## 表紙制作者より

今号の表紙原案と一記事を担当しました者です。お手に取ってくださったあなたに厚い御礼を。今年度も、全代会広報委員会はこの雑誌をお待ちして下さる方のために奮闘してまいります。ぜひお楽しみに。

【鈴木泰我】

## 編集後記

全代会副議長と広報委員長の間、一個上の先輩が引退し編集長となった。遠目で見ていた編集作業をいざ引き継ぐと、みんなにも大変だとは思わなかった。制作部の方々の全面サポートの下、どうにか作り上げることができた。この場を借りて、感謝の意を表す。広報委員会内の最上級生となり、全代会内では大所帯の委員会を率いることになる。広報委員会のみならず、やりがいを持って活動できるよう、サポートしていきたい。そして何より多くの方々に読んでもらえるような Campus にしていくのが私の使命だ。

【軽辺凌太】

## BACK NUMBER



Campus No.220 2020/01/08  
特集：開かれた大学の入り口をリ・デザインする

年中行事のルーツをみつめなおす  
社会問題解決の"Math"ter Key  
全代会活動報告



Campus No.219 2019/10/01  
特集：この大学は森なのか

あなたのとりの社会科学／全代会の2019年度  
全代会活動報告



Campus No.218 2019/04/01  
特集：平成の変遷

広がる看護、繋がる看護／全代会概論  
全代会活動報告



Campus No.217 2019/01/08  
特集：冬を上手に乗り越える

災害大国の羅針盤／知識の海に潜る  
全代会活動報告

## STAFF

編集人	軽辺凌太
発行人	鈴木泰我
表紙デザイン案	鈴木泰我
編集委員	新真澄 稲富拓人 軽辺凌太 北川汰知 櫻井伶 鈴木泰我 茂業哲也 繁森有紗 瀬邊風馬 高島亮 近森正太郎 中山皓太 村松真緒

発行 全学学類・専門学群代表者会議  
広報委員会



<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/home/>  
zdk@stb.tsukuba.ac.jp

バックナンバーは1学食堂内のボックスで配布しています。  
ウェブ版『Campus』公開中 <https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/home/>

広報委員会では随時専門委員を募集しています。興味のある方は上記のメールアドレスまでご連絡ください。